

学びを広げ深めるために

① 自分なりのめあてを持てるようにする

用具を操作する上で、自分がやってみたいと思う動きをつくったりトライしたりしていきことができるような学習であることを伝え、子どもに安心と期待が持てるようにする。そうすれば、自分なりにめあてを持ってトライしたり、工夫して動きを作ったりしていきと考える。

→意欲的に動いたりつくったりする姿

② 自分なりのめあてを達成できるようにする

使える用具の数を考慮し、動きにトライする時間と場をできるだけ多く確保できるようにする。そうすれば、回数を増やすことや、うまくいく方法といった部分を自分なりに考えて動くことができるであろう。活動する際には、4人程度のグループ行動を基本とする。その中で、人とのよりよい関わりが生まれることを期待したい。言葉によるアドバイスや励ましはもちろんであるが、友達の動きにあるよさに気づき、自分の動きに生かしていくことにつながると考える。教師は、一人ひとりの動きが高まるように、また友達相互の関わりが機能するように、多面的に助言していくことが必要である。

→繰り返しトライする姿 友達とよりよく関わる姿

③ 自分のめあてが達成できたらそこで満足せず、新たなめあてが持てるようにする

一人ひとりが自分の歩みやグループの歩みを意識していけるようにする。そのために、一回一回のトライに対して回数や距離、時間、数などの結果を大切にしていける。記録する学習カードの活用も考えられるが、ここでは3年生であることやできるだけ多くの動きにトライすることを大切にするために、頭に残す程度としたい。また、動きを広げるために、友達がつくった動きを紹介し、やってみたいことを広げていきたい。

→いろいろな動きにトライする姿

4 本時の学習 (3/4時)

ねらい ボール・輪・棒を使って行う動きをつくったり、それらの動きにトライしながら、素早さやタイミングのよさなどを高めたりする。

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教 師 の 働 き か け
1 用具を準備し 体をほぐす 2 本時でトライすることの見通しを持つ	本時の方向づけを明確にして 学習に入っていけるようにする
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ○○を使ってする動きにトライしよう </div>	
3 いろいろな動きにトライする	めあてに向けて取り 組んでいるかを確認 しながら 動きのポ イントや友達とのか かわりなどについて 助言する
<p>ボール 輪 棒</p> <p>回数 数 距離 時間 を数えたり 計ったりして</p> <p>つ 捕 投 転 く 回 素 素 素 く 取る げる が ぐる す 早 早 早 など など する する する 移動</p> <p>体を使う部 分を変化さ せて</p> <p>1人で 2人で 3人で 4人で など 人数を変えて</p>	
4 本時の学習をふりかえる ・自分のめあてについて グループで行った活動について ・新しくつくった動きについて	友達のよさを互いに認め 合ったり 友達と活動し てよかったことや新しい 動きを紹介したりする
5 整理運動をし 用具を片づける	

5の3 体育科学習指導案

第1日2限 運動場

(雨天時 体育館)

授業者 長谷部 学

1 単元名 サッカー～未来のプレーを予想して～

- 2 目標 ・ルールを工夫したり、簡単な作戦や役割を考えたりして楽しくゲームができる。
・ドリブル、パスなどの技能を生かし、集団の中で攻防を工夫しゲームができる。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

サッカーは刻々と変化する状況の中で、これから起こる「未来のプレー」を予測して動き、手を使わないでボールをコントロールしながら得点を競い合うゲームである。フォーメーション(集団プレー)からの得点がサッカーの本質的なプレーである。例え個人技能が高くなくても、ボールに積極的に関わることでサッカーを楽しんだり、成功の喜びを味わうことができる。また、ルールの工夫・作戦の工夫によって喜びや楽しさが増す運動である。しかし、その喜びや楽しさは一部の個人技能に優れた子どもだけのものとなり、サッカー本来の楽しさを経験できないでいる子どもが多く見られる。

そこで、本単元では、どの子にもサッカーの楽しさが「分かる」、楽しくゲームが「できる」ことを基礎・基本ととらえていく。

まず、サッカーの楽しさが分かるためには、積極的にボールに触れて、みんなとプレーすることで、得点できたという喜びや作戦の成功に貢献できたという満足感が味わえる場面を大切にしていきたい。チームの喜びを個人の喜びにできる集団でありたい。

また、みんなが楽しくゲームできるためには、学習材としてのサッカーで技能の扱いを明確にしておく必要がある。どんなに優れた個人技能があってもプレーの限界があり、例え得点できてもそれは自己満足に過ぎない。サッカーの本質的なプレーに迫るためにも、本単元では、「未来のプレー」を予測して攻撃に有効な空間を作り出したりする空間認識と、タイミングよく走り込んだり適度なスピード(強さ)のパスを出したりする時間認識を含んだ集団技能の向上を目指していきたい。そのためには、ゲームの中でもとよなる作戦や一人ひとりが果たす役割を考えたり、練習方法やルールを工夫していくことが大切である。一人ひとりがチームで考えたことを具体的に表していくためには、個人技能が必要である。そこで、個人技能についてはゲームで必要と感じた技能を習得していこうとする姿を期待している。さらに、ルールや勝敗に対する望ましい態度を大切に、共に「うまくなっていく」ことを目指す共同学習の姿を期待したい。

以上のように、みんながサッカーの楽しさを味わい、その中で自分なりの考えや動きを表していくことで体育科で求めている本質に迫ることができると考えている。

単元計画(総時数 11時間)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 学習の方向を知る ・自分もっている力で試しのゲームをする	①
2 個人技能の練習と基本事項の学習をする ・キック シュート パス ドリブル トラップ ・みんなでもとになるゲームルールをつくる	①②
みんながサッカーのゲームを楽しめるようになるよう	
3 ゲームをしながら、チームごとのめあてに取り組む	
●例A ゲーム1で、自分たちが必要に感じた個人技能をチームで練習しよう ・キック パス ドリブル トラップ	ゲームルールの見直し・工夫 ①②③
ゲーム1 → 話し合い → 練習 → ゲーム2 → 話し合い × 6	
●例B ゲーム2で、みんなが楽しめる役割を考え集団技能を生かしたゲームをしよう ・ポジションを交代する ・時間、エリアを工夫する	●例C ゲーム2で、攻撃に有効な空間を作り出せる集団技能を成功させよう ・見つけだして、走る込む ・ディフェンスを引きつけ空間を作りだす
4 「リーグ戦」を開催しよう 第1戦 → 話し合い → 第2戦 → 話し合い → 第3戦	②③

学びを広げ深めるために

① 自分(チーム)なりのめあてを持てるようにする

本単元では、みんながサッカーを楽しむために、「チームの中で、どのような責任や役割を果たしていくか」(集団技能)について考えさせたい。そのために、まず現在の力でゲーム1を行い、ゲームをふりかえた話し合いから、次のゲーム2に向けてめあてが持てるようにしたい。また、一人ひとりがゲームを通して必要と感じた個人技能に関するめあてを持てるように、めあてカードを活用していきたい。
→チームや自分にとって必要なことを見つめる姿

② 自分(チーム)なりのめあてを達成できるようにする

めあてを達成していく時、自分たちの考えた活動内容が意味を持っているかを考えさせたい。めあてとの関連が薄かったり、停滞している活動が見られる場合、基本的なフォーメーション、攻撃パターンなどの集団技能に関する練習方法や、個人技能の練習例を提示していく必要があると考える。また、めあてに取り組んでいる状況が客観的に確認できるように、デジタルカメラの活用やペアチームで相互にアドバイスし合うなど情報提供の場を設けていきたい。さらに、練習時間や成果を確かめるゲームなどの時間も確保していきたい。
→自分たちの姿を確かめながらめあてに取り組む姿

③ 自分(チーム)のめあてが達成できたらそこで満足せず、新たなめあてが持てるようにする

本単元のめあては、サッカーのゲームを楽しめるようになることであり、集団技能の向上を追求していくことである。一つのめあてが達成されたら、自分たちが求めてきた楽しさをふりかえる。楽しさの質の変容(みんながボールに触れたよ→役割を果たせたよ→作戦Aが成功したよ→作戦を重ねてゲームに勝てたよ)を促すことで、より高度な集団技能の向上を目指していく姿を期待している。
→楽しさを広げようとする姿

4 本時の学習(7/11時)

ねらい ・攻め方や守り方を工夫して作戦を考え、みんなで協力してサッカーをする。

本時の展開

